

# 社会を観察する視点

社会変化の発見、機会発見と同じある。変化は成長のチャンスである。

変化した後では、手遅れで、変化の兆候を見つけなければならない。

2つの視点がある。一つは状態を見る視点、他は見る対象である。2つが組み合わされて、変化と変化の影響をつかめる可能性が出てくる。

変化の影響が出てくる対象、影響の強さを計る必要が出てくる。手がかりは、状況把握後の短期間での状態変化から計測できる。但し、状態描写をしなければならないが、状態認識のレベルによって機会獲得が異なってくる。

【見る対象】下記図の7つ項目がある。ともに、社会の秩序に大きな影響を与える。

流通形態の変化は、社会変化に直結する。労働形態は、緊張と抑圧が常時繰り返し替えられ、定期的に潮流が現れるが、その寿命は長くない。等々。

それぞれ項目と自らの活動との関連を把握しておく。



## 状態を見る

社会状態を探る手がかりが「緊張」「抑圧」「潮流」「転換」「変革」の5つである。どこかの分野で、必ず、5つのどれかが起こっている。変革は変化の結果であるが、変革の後には必ず緊張が起こっている。右の図の各項目について、5つの状態を観察する。さらに、自らが活動している産業、業種、職種について5つを探す。観察は短い周期で確認する方がよい。

## 見る対象

見るべき中心は生活形態であり、生活形態からの影響と、生活形態への影響をとらえる。

